

Library News



京教図書館 News

2007

9

私のすすめるこの1冊・・・(関根文太郎教授)産業技術科学科

アパ・ルーム(The Upper Room), ビッグ・イシュー(The Big Issue)

猛暑といわれるこの時期でさえ、夜半にはすでに秋の虫の声が涼やかな音色を奏で始めている。読書にはぴったりの秋の夜長も、もう間近であろう。日頃は日常の忙しさを言い訳に、専門書以外の本とはほとんど縁の無い私ではあるが、偶然手にした二冊の小冊子について少々ご紹介させて頂こうと思う。

まず、アパ・ルーム (The Upper Room)。～日々の黙想の手引書 (Daily Devotional Guide) ～という副題のこの本は、教派を超え、国家を超え、民族を超えて世界中で81版が42言語で愛用されており、クリスチャンや聖書研究グループのスタディガイドに好適な本である。ページ数にして僅か80頁弱の薄型ではあるが、日々の黙想テーマと関連する聖書箇所、世界中の読者から寄せられた黙想文、祈祷の焦点などキメ細かな配分で構成された充実の内容だ。私は、数年前に本学の聖書研究会顧問を務めていたが自身はクリスチャンではなかった。いわばその分比較的冷静にこの種の読み物に接する事が出来たわけだが、決して宗教的に押し付けがましい内容でもなく、むしろ市井の人々が普通の生活の中で抱く悩みや怒り、喜び、悲しみを共に分かち合い平安を得るためのヒント集といった感じでお薦めする。

二冊目、ビッグ・イシュー (The Big Issue)。こちらは2002年秋から在外研究員として英国在住の折、当時住んでいたバーミンガムの街角で、ホームレス支援の一環として、ボランティアや自立を目指すホームレスの方自身が、月曜日ごとに発行される週刊誌版 (一部1ポンド) を販売していたものだ。当時はバーミンガム大学への出勤途中に毎月曜、このビッグ・イシューを買い求める事が私のささやかな習慣となり、翌年の帰国の頃には販売員ともすっかり顔なじみになった思い出の一冊である。その後ほどなく日本でも同じ主旨で日本語版が販売されるようになり、京都タワー前や三条橋付近の販売員から買い求めるようになり、その方々が自立して一人また一人と販売を卒業してゆく事をうれしく思ってきた。また、一昨年ドイツの学会へ出張の折、あちらでもドイツ語版を見つけ、何やらうれしくて思わず日本語版もあることを説明してしまったが、果たしてあの時、私の拙い独語でどこまで通じたものやら。

以上、二冊の小さな冊子について紹介させていただいたが、いずれも手にして読むことで、自分のみならず他者へも小さな幸せの灯を燈す、希望の種ともいえるべき本だと思う。

※ 「The Upper Room」 <http://www.upperroom.org/> より入手可

※ 「The Big Issue」 <http://www.bigissue.jp/> 入手方法は本文参照 1部 200円

■ 図書館からのニュース

1. 夏季休業にともなう長期貸出について

下記のとおり長期貸出をしますので、ご利用ください。

対 象	院 生 ・ 教 職 員	学 部 生
貸出期間	7月2日(月)～9月4日(火)	7月17日(火)～9月19日(水)
貸出冊数	10冊	5冊
返却期日	10月4日(木)	

* 視聴覚資料は除きます。

* 長期貸出図書については、貸出の延長はできません。一度返却してから翌日以降貸出の手続きをとってください。

* 一般利用者の方の長期貸出はできません。

2. 職場体験実習について

9月6日(木)に本学附属特別支援学校の生徒を受け入れ、職場体験実習を行います。ご協力方、よろしくお願いいたします。

また、8月6日(月)、7日(火)にかけて同学校生徒1名を受け入れての職場体験実習の際には、ご協力頂きましてありがとうございました。

3. 書庫再配置作業に伴う利用制限について

書庫再配置作業のため、以下の期間中、書庫内への立ち入りができません。

資料によっては、利用できないこともあります。

- 期間：9月10(月)～9月21日(金)
- 場所：書庫内全フロア

書庫内資料の利用を希望される場合は、カウンターまでお申し出ください。

また、作業の進捗状況によっては期間を延長する場合があります。

南館1階・2階(整理中の一部の書架を除く)、北館およびグループ学習室は、通常どおりご利用いただけます。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

4. 10月から施工される校舎耐震改修工事に関連するお知らせ

(1) 図書等の運搬作業について

教員研究室貸し出し中の図書等を図書館へ運搬する作業が9月18日(火)～28日(金)にかけて委託業者により行われます。この期間中は、玄関・入館ゲート前付近がこの作業で混雑することが予想されます。

(2) 9月以降の「視聴覚室」の利用について

耐震改修工事期間中は、教室・ゼミ室等が不足しますので、「視聴覚室」も教室・ゼミ室等に転用します。従って、通常利用が著しく制限されます。

以上、2点について、ご協力方よろしくお願いいたします。

■ 論のくちび理のむすび・・・(坂田薫子准教授)英文学科

「レイプとその表象—『レイプ神話』とイギリス文学(1)」 (英文論文)

坂田 薫子 : 京都教育大学紀要 NO.110:P51-64, 2007

私の論文「レイプとその表象——『レイプ神話』とイギリス文学」は、アメリカのフェミニスト、スーザン・ブラウンミラーがその有名な著書『レイプ・踏みにじられた意思』(1975年)で厳しく糾弾した「男たちが作ったレイプ神話」の形成と発展に、イギリス文学がどのように貢献してきたかを考察することを目的としています。16世紀にシェイクスピアが『ルクリースの陵辱』(1594年)で描いたレイプ、18世紀にリチャードソンが『クラリッサ』(1747-48年)で描いたレイプ、19世紀にハーディが『ダーバヴィル家のテス』(1891年)で描いたレイプ、そして20世紀にアンジェラ・カーターが短篇集『血染めの部屋』(1979年)の中の「狼たちの群れ」で描いた赤ずきんちゃんのレイプを中心に、時代を追いながら、イギリス文学におけるレイプの表象の変遷を辿っています。

今回紹介する『京都教育大学紀要第110号』に掲載された「レイプとその表象——『レイプ神話』とイギリス文学(1)」は同論文の前編にあたり、特に『ルクリースの陵辱』と『クラリッサ』を中心に論じています。ここでは、リウイウス(紀元前59年頃～紀元後17年)が著した『ローマ史』において、権力闘争の象徴として存在していたルクレティアのレイプが、シェイクスピアのよって書き換えられたとき、レイプの原因は女性のセクシュアリティにあったことに変更され、レイプ犯罪の加害者による被害者への責任転嫁が行われたこと、そしてリチャードソンがクラリッサのレイプを描いたとき、レイプの犠牲者は半意識の誘惑者に位置づけられ、レイプ事件というものは被害者の自業自得で生じるものなのだという「レイプ神話」が顕著になったことを論じました。

今月末に発行される『京都教育大学紀要第111号』にはこの論文の続きとなる「レイプとその表象——『レイプ神話』とイギリス文学(2)」が掲載されます。興味を覚えた方は是非そちらもお読みになって下さい。



全文は図書館HP「京都教育大学紀要」で、ご覧いただけます。

■ 図書館開館スケジュール



(通 常)

開館時間： 9:00

閉館時間： 21:00

一部期間は 17:00 に閉館します

下記カレンダー「～17:00」と記載

9

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
												1	
													～17:00
2		3		4		5	整	6		7		8	
休館						休館							～17:00
9		10		11		12		13		14		15	
休館													～17:00
16		17	祝	18		19		20		21		22	
休館		休館											～17:00
23		24	振	25		26		27		28		29	
休館		休館											～17:00
30													
休館													

10

日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
		1		2		3	整	4		5		6	
						休館							～17:00
7		8		9		10		11		12		13	
休館		休館											～17:00
14		15		16		17		18		19		20	
休館													～17:00
21		22		23		24		25		26		27	
休館													～17:00
28		29		30		31							
休館													

9月17日(月)は祝日のため休館します。
9月24日(月)は振替休日のため休館します。

10月8日(月)は祝日のため休館します。

京教図書館 News No. 84 2007年9月号

編集発行：京都教育大学附属図書館

発行日：平成19年9月3日

内容に関するお問い合わせ先：

附属図書館（内線8176）



京都教育大学